

稲・大豆作情報 (NO. 6)

1. 水稲作況情報田の生育概況(8月4日現在)

品 種 場 所	移植日 栽植株数	年 次	現在の生育状況				概況
			草 丈 cm	茎 数 本/m ²	主稈 出葉数	葉色	
夢しずく 佐賀市本庄町	6/15 17.5株/m ²	本 年	90.2	425	12.1	43.8	7月6半旬は降水量が多 く、日照時間が短く推移 した。中晩生品種の茎数 は少ない。全体的に葉齢 の展開が遅れ気味で、葉 色は濃い。
		平 年	87.0	380	12.6	39.5	
		平年比	(104)	(112)	(-0.5)	(111)	
さがびより 小城市芦刈町	6/22 16.1株/m ²	本 年	67.0	421	11.6	41.7	※一部、「さがびより」「ヒ ヨクモチ」でガス湧き・スク ミリンゴガイの被害あり
		平 年	75.4	494	12.9	37.7	
		平年比	(89)	(85)	(-1.3)	(111)	
ヒヨクモチ 小城市牛津町	7/1 18.5株/m ²	本 年	43.6	468	10.8	43.9	
		平 年	59.6	666	12.8	41.7	
		平年比	(73)	(70)	(-2.0)	(105)	

注1) 各品種 前作: 麦

注2) 施肥及び病虫害防除は地区基準に準ずる。

2. 水稲管理

中干しが十分にできなかった圃場においても、間断灌水に移行し、断水期間（水を切る期間）を長めに行うことで徐々に地固めを行う。ただし、土が白く乾かないように注意し、絶えず黒乾状態を保つようにする。

○今週の管理

○穂肥施用について(各品種共通事項)

- ・穂肥施用時（幼穂形成始期）は湛水し、その後の間断灌水では、地固めと根に空気を送るため落水期間を確実にとる。地が緩い場合は、落水期間をやや長めにとる。
- ・穂肥は下記の診断結果を基に施用する。また、幼穂形成期以降は、要水量が多い時期であるので強い水分ストレスを与えないように注意する。
- ・いもち病が発生している圃場への穂肥施用は、発生を助長するため施用を控えことが原則であるが、葉色の低下がみられる圃場では、防除を行ったあとに穂肥を施用する。

<夢しずく>

- ・幼穂形成施用時期を迎えている。出穂はお盆～お盆明け頃の見込み。

<ヒノヒカリ>

- ・8月中旬頃に穂肥施用になるとされる。

【ヒノヒカリ穂肥診断基準】

幼穂形成始期の草丈	幼穂形成始期の葉色		施用時期		穂肥施用量	
	群落	葉緑素計	出穂前	幼穂長	N成分 kg/10a	BB602 kg/10a
80cm以下	3.0以下	34以下	20~24日	1~2mm	3.0	18.8
	3.0~3.3	35~38	18~20日	3~5mm	3.0	18.8
	3.5~3.8	39~40	16~18日	5~15mm	2.0	12.5
	3.8以上	41以上	—	15~30mm	1.0以下	6.3以下
80cm以上	3.0~3.3	35~38	18~20日	3~5mm	2.0	12.5
	3.5~3.8	39~40	16~18日	5~15mm	1.5	9.4
	3.8以上	41以上	—	15~30mm	1.0以下	6.3以下

<さがびより>

- ・「さがびより」では、8月中下旬頃に穂肥施用になるとされる。
- ・施用時期は幼穂長5~10mmが基準。

★新基準 H29~★ さがびより診断基準

幼穂形成始期 (幼穂長1mm) の草丈	葉色		施用時期		穂肥施用量	
	群落	葉緑素計	出穂前	幼穂長	N成分 (kg/10a)	BB602 (kg/10a)
80cm以下	3.5以下	38以下	18~20日	5mm	2.5	15.6
	3.7	38~40	18日	10mm	2.0	12.5
	3.8	40~41	16日	15mm	1.0	6.3
	3.8以上	42以上	施用しない			
80cm以上	3.8以下	39以下	16~18日	10~15mm	1.5	9.4
	3.8以上	40以上	施用しない			

さがびより旧診断基準 (※中山間地域参考)

幼穂形成始期 (幼穂長1mm) の草丈	葉色		施用時期		穂肥施用量	
	群落	葉緑素計	出穂前	幼穂長	N成分 (kg/10a)	BB602 (kg/10a)
75cm以下	2.5以下	33以下	18~20日	5mm	2.5	15.6
	3.0	33~37	18日	10mm	2.0	12.5
	3.5	37~38	16日	15mm	1.0	6.3
	3.8以上	39以上	施用しない			
75~80cm	3.0以下	36以下	16~18日	10~15mm	1.5	9.4
	3.0以上	37以上	施用しない			
80cm以上	施用しない					

さがびよりの生育ステージと穂肥の施用時期のイメージ

「さがびより」の生育ステージ		←--- 穂肥時期の目安 ---→										
出穂前日数	-25	-24	-23	-22	-21	-20	-19	-18	-17	-16	-15	出穂期
幼穂形成始期及び幼穂形成始期からの日数						4日後	6日後	1週間				
幼穂長		1mm	2mm	5mm	10mm	15mm	20mm					
標準的な草丈(cm)	72~75	草丈の指標は、1cm/2日減じて使用する										
備考						適期						
注1) 「 」印は、幼穂形成始期を示す												

○病害虫情報(発生および防除)

◆トビイロウンカ

- ・必ず各地域及び圃場ごとの発生状況を確認する。(各地域及び圃場ごとに発生量が異なるため)
- ・防除の際は、湛水するとともに、株元まで薬剤が十分かかるよう、ていねいに散布する。
- ・防除は、発生予測を参考に行う(前号に記載)。

※最新の飛来状況については、農業技術防除センターのホームページから確認してください。

農技防 HP 参照：病害虫情報：<http://www.pref.saga.lg.jp/kiji00368010/index.html>

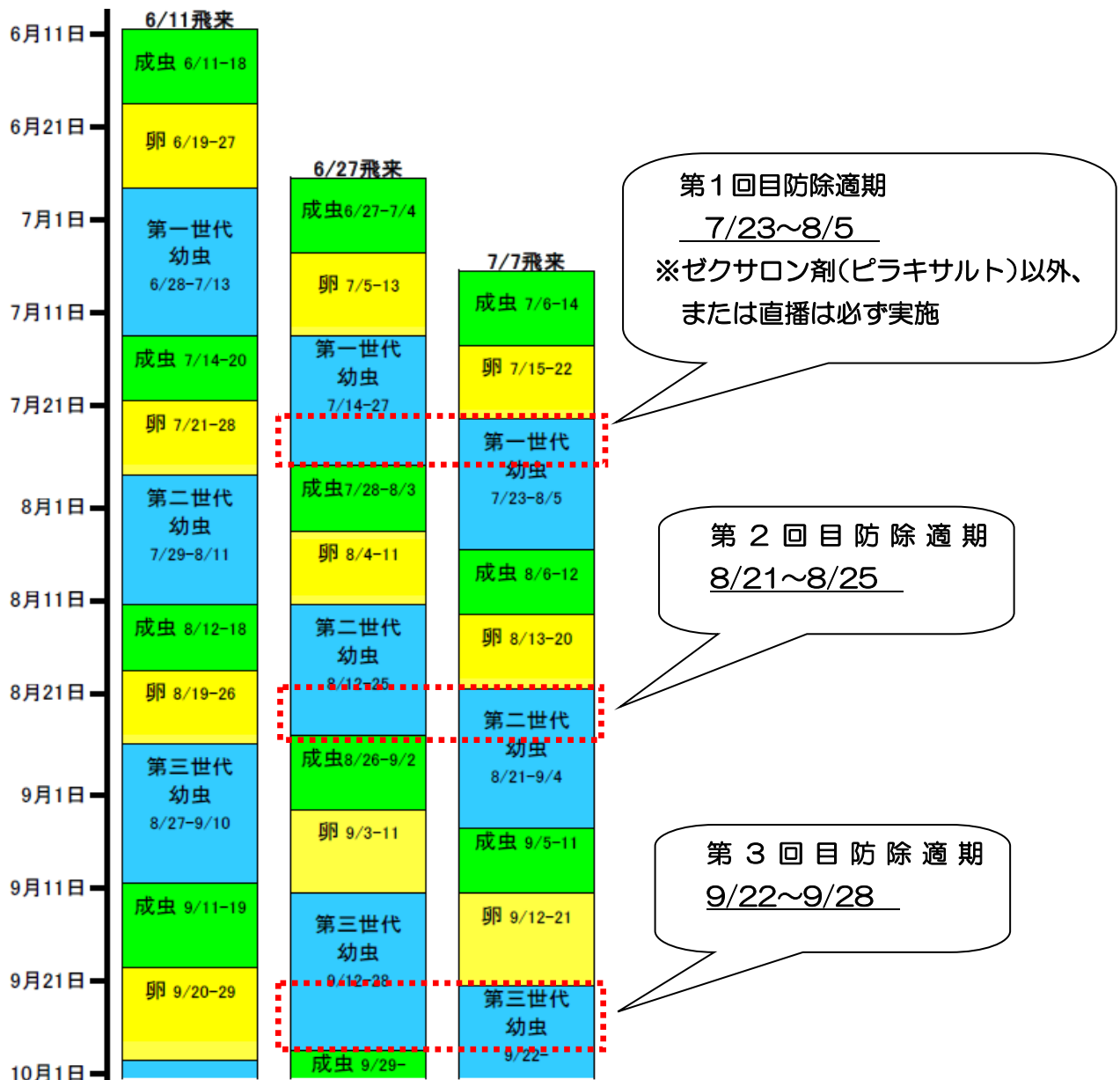


図1 トビイロウンカ各世代の発生予測

「海外飛来性害虫情報」と「BLASTAM情報」(2020年7月29日)

1. 海外飛来性害虫情報第8号(イネウンカ類・コブノメイガのトラップ捕獲状況)

月	日	トビイロウンカ						セジロウンカ						コブノメイガ						
		佐賀県			長崎県			佐賀県			長崎県			佐賀県			長崎県			
		佐賀市	佐賀市	嬉野市	諫早市	諫早市	諫早市	佐賀市	佐賀市	嬉野市	諫早市	諫早市	諫早市	佐賀市	佐賀市	神埼市	伊万里市	白石町	武雄市	諫早市
ネット トラップ	ライト トラップ	ライト トラップ	ライト トラップ	ネット トラップA	ネット トラップB	ネット トラップ	ライト トラップ	ライト トラップ	ライト トラップ	ネット トラップA	ネット トラップB	フェロモン トラップA	フェロモン トラップB	粘着トラップ (20W蛍 光灯)	粘着トラップ (20W蛍 光灯)	粘着トラップ (20W蛍 光灯)	粘着トラップ (20W蛍 光灯)	フェロモン トラップA	フェロモン トラップB	
6月	1日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	6日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	7日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	8日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	9日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	10日	0	欠測	0	0	0	0	3	欠測	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	11日	0	欠測	11	1	0	0	2	欠測	17	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	12日	0	欠測	0	2	0	0	14	欠測	6	30	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	13日	0	欠測	0	0	0	-	6	欠測	2	1	0	-	0	0	0	0	0	0	0
	14日	0	欠測	0	1	0	0	1	欠測	1	12	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	15日	0	欠測	0	0	0	0	3	欠測	2	16	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	16日	0	欠測	0	0	0	0	2	欠測	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	17日	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	18日	0	0	0	0	0	0	6	0	3	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	19日	0	0	0	0	0	0	3	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	20日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	21日	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	22日	0	0	0	0	0	0	1	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	23日	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	1	0	1	0	0	0	0	0	0
	24日	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	3	0	1	0	0	0	0	0	0
	25日	1	0	2	0	0	0	2	0	6	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	26日	0	0	6	0	0	0	0	1	12	31	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	27日	0	0	70	6	0	0	2	1	149	18	1	0	2	0	0	0	0	0	0
	28日	0	0	7	1	1	0	0	0	14	7	0	0	2	0	0	0	0	0	0
	29日	0	欠測	0	0	1	1	9	欠測	1	5	6	1	0	0	0	0	0	0	0
	30日	0	0	11	4	0	0	5	1	3	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0
7月	1日	0	0	3	1	0	0	0	2	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	2日	0	0	16	0	0	0	0	1	9	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	3日	0	0	20	11	0	0	0	0	57	49	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4日	0	0	3	8	0	0	0	0	0	21	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	5日	0	0	3	72	1	0	2	0	17	88	2	3	0	0	0	0	0	0	0
	6日	0	欠測	358	10	9	-	0	欠測	107	54	25	-	0	0	0	0	0	0	0
	7日	0	2	1575	3	2	3	0	6	620	19	4	5	0	0	0	0	0	0	0
	8日	0	15	2485	60	0	0	2	62	755	424	1	0	1	1	0	0	0	0	0
	9日	0	0	498	13	0	0	2	13	71	16	2	0	1	0	0	0	0	0	0
	10日	0	欠測	165	1	0	-	2	欠測	33	10	0	-	3	欠測	0	0	0	0	0
	11日	0	欠測	480	19	0	0	2	欠測	152	67	0	0	1	1	0	0	0	0	0
	12日	0	欠測	56	8	0	0	0	欠測	14	29	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	13日	0	0	29	0	0	0	1	0	5	0	7	0	2	3	0	0	0	0	0
	14日	0	0	0	0	0	0	0	1	3	41	3	1	1	3	0	0	0	0	0
	15日	0	0	2	0	0	0	0	6	4	28	0	0	0	12	0	0	0	0	0
	16日	0	0	0	0	0	0	1	4	2	23	0	0	1	3	0	0	0	0	0
	17日	0	0	0	0	0	0	0	5	2	9	0	1	0	9	0	0	0	0	0
	18日	0	0	0	2	0	0	0	2	8	13	1	0	0	4	0	0	0	0	0
	19日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	20日	0	0	3				1	0	8				2	0	0	0	0	0	0
	21日	0	0	8				0	0	10				2	0	0	0	0	0	0
	22日	0	0	2				0	15	7				0	11	0	0	0	0	0
	23日	0	1	1				0	2	2				1	2	0	0	0	0	0
	24日	0	0	1				5	1	6				9	14	0	0	0	0	0
	25日	0	0	6				1	0	38				0	32	0	0	0	0	0
	26日	1	0	14				0	3	47				0	19	0	0	0	0	0
	27日													3	9					
	28日																			
	29日																			
	30日																			
	31日																			
8月	1日																			
	2日																			
	3日																			
	4日																			
	5日																			

注1) ネットトラップと予察灯(ライトトラップ)は、農業試験研究センターで調査。嬉野予察灯は農業技術防除センターで調査。
注2) コブノメイガ: 神埼市、白石町、伊万里市、武雄市は防除員が調査。佐賀市のフェロモントラップは農業試験研究センターで調査。
長崎県のデータは、長崎県病害虫防除所提供。

◆いもち病

やや低温で日照不足が続いていたため、発生しやすい状況である。一部の圃場では局所的に発生しており、病斑が上位葉に発生しているようであれば、早急に防除を行う。

◆紋枯れ病

分けつが遅れているため、発生は少ないと思われるが、高温多湿条件が続くと発生する恐れが高まる。田回りを励行し、病斑が確認された場合は、早めに防除を行う。

3. 大豆管理

7月中旬播種した圃場では、本葉1～2枚目が展開している。ゲリラ豪雨に備えた排水整備をおこなう。

今後も晴天が予測されるため、これから播種する圃場は、やや深めの播種深度や播種後に鎮圧することが望ましい。

○播種

これから播種や再播種を行う圃場は、下表を参考にする。

播種後1週間以上経過しても発芽していない圃場は再播種を検討する。

栽植本数 ㎡あたり	栽植様式 条間×株間×1株本数	播種量 (kg/10a)	施肥
27本	75 × 11 × 2	8.0	BB480を40kg/10a (生育量確保のため行う)

・播種深度

播種後2～3日以内に降雨が予想される時や、土壤水分が多い場合→2cm程度の浅め 鎮圧はしない

播種後1週間以上好天が予想される時や、土壤が乾燥気味の場合→4cm程度の深め かつ 鎮圧する。

○排水対策

局地的なゲリラ豪雨に備えるため、排水溝の整備を行っておく。

額縁明渠の角・水尻付近が確実に繋がっているか確認をおこなう。

○培土

雑草防除や発根・根粒形成促進のため、以下目安を参考に培土を実施する。

【実施時期の目安】

1回目：本葉2～3枚の頃、子葉が隠れる程度におこなう。

2回目：本葉4～5枚時に、初生葉（子葉の上の葉）まで隠れるようにおこなう。



1回目の培土時期の目安

令和2年産水稻生育期間気象グラフ（アメダス：佐賀）

佐城農業改良普及センター

